
2003年7月7日

帝人株式会社と仏イプセン社とのライセンス契約について

帝人株式会社
イプセン社

帝人株式会社(本社:大阪府中央区、社長:長島 徹)とイプセン社(Ipsen)(本社:仏・パリ、社長:ジョン・ルーク・ベランガー)は、このたびイプセン社4品目の日本における開発・販売、並びに帝人の新規痛風・高尿酸血症治療薬(TMX-67)の欧州における開発・販売について契約を締結しました。

本契約において、帝人は日本におけるイプセン社の事業基盤の確立を支援し、イプセン社は欧州における帝人の事業基盤の確立を支援します。また、将来の販売基盤確立後、日本および欧州における各品目の販売権をイプセン社、帝人それぞれに返還することが合意されています。

このたびイプセン社から導入する4品目は、帝人が日本における共同開発・販売権を取得したグルカゴン様ペプチド1・アナログ(開発コード:BIM51077、以下「GLP-1」)、同じく独占開発・販売権を取得したソマトスタチン2型受容体選択的ソマトスタチン・アナログ(開発コード:BIM23190、以下「SSTR-2」)、副甲状腺ホルモン1-34フラグメント・アナログ(開発コード:BIM44058、以下「PTH」)ならびに徐放性ソマトスタチン・アナログ製剤(商品名:ソマチュリン®オートゲル®、以下「ソマチュリン」)です。

帝人はこれら4品目を、各々「Ⅱ型糖尿病(GLP-1)」、「糖尿病性網膜症(SSTR-2)」、「重症骨粗鬆症(PTH)」、ならびに「末端肥大症(ソマチュリン)」を期待効能として開発する予定です。これらの新規化合物は、国内外で開発中の同系統の競合化合物に優る有効性を有することが期待され、イプセン社が有する卓越したペプチド医薬創製技術と高分子徐放製剤化技術を活用して開発することにより、将来の医療ニーズに貢献します。

各品目の海外における開発段階は、GLP-1ならびにSSTR-2は第Ⅰ相試験実施中であり、PTHは前臨床段階にあります。ソマチュリンは、フランス、イギリスを含む欧州数カ国にて販売中であり、アメリカにおいては第Ⅲ相試験実施中です。帝人はイプセン社の協力の下、これら4品目の国内の開発・販売を推進していきます。

一方、TMX-67は、当社において研究を重ねた結果見出された新規キサンチンオキシダーゼ阻害剤です。本剤は既存のキサンチンオキシダーゼ阻害剤であるアロプリノールとは全く異なる基本構造を有しており、少ない投与量で有効性を発揮し、かつ安全に使用できる、新規痛風・高尿酸血症治療薬となることが期待されています。現在、当社は国内において第Ⅲ相試験を実施中であり、アメリカにおいてもTAPファーマシューティカル・プロダクツ株式会社(本社:米・イリノイ州、レイクフォレスト)が第Ⅲ相試験を実施中です。今回イプセン社が新たに加わるにより、日米欧3極での開発が並行して進行することになります。

【帝人コメント】大八木 成男 帝人グループ専務執行役員 医薬医療事業グループ長

「GLP-1、SSTR-2ならびにソマチュリンが帝人のパイプラインに加わることにより、将来、代謝性疾患領域で国内有数の販売フランチャイズを構築できることが期待されます。一方、「ボナロン®」「ワンアルファ®」等、帝人の既存ラインナップにPTH製剤が加わることで、帝人がリーディング・カンパニーを目指す骨粗鬆症領域において、骨粗鬆症治療のトータル・ソリューションを提供できるようになります。また本契約により、欧州医薬品業界において確固たる地位を有するイプセン社の支援の下、欧州医薬市場への進出基盤の構築が可能となることを期待しています。」

【イプセン社コメント】ジョン・ルーク・ベランガー社長

「イプセン社は、特に国際化戦略強化の観点から、新たな提携並びにパートナーシップ構築に積極的に取り組んでまいりました。今回、日本の製薬企業として多くの実績を有する帝人と契約することにより、世界第二の市場である日本における、イプセン社のプレゼンス確立が可能となることを期待しています。」

以 上

【当件に関するお問合せ先】

帝人株式会社 広報・IR室

(東京) 宇佐美・森 (TEL:03-3506-4055 FAX:03-3506-4150)

(大阪) 大木・杉本 (TEL:06-6268-2763 FAX:06-6268-3010)

【参考】

帝人株式会社概要

- | | |
|------------|---|
| 1. 設 立 | 1918年6月17日 |
| 2. 本社所在地 | 大阪市中央区南本町1-6-7 |
| 3. 資 本 金 | 707億87百万円(2003年3月末現在) |
| 4. 代 表 者 | 代表取締役社長 CEO 長 島 徹 |
| 5. 従 業 員 数 | 連 結 23,265名(2003年3月末現在)
単 体 2,938名(同 上) |
| 6. 売 上 高 | 連 結 8,904億円(2003年3月期)
単 体 1,274億円(同 上) |
| 7. 事 業 内 容 | 合成繊維、化成品、医薬医療を中心に、グループ企業と共にグローバル事業を展開している。医療用医薬品は、骨代謝系、呼吸器系、循環代謝系の3分野に特化して全国展開している。また、在宅医療分野では、酸素濃縮器を中心に全国展開を行っている。 |

イプセン社概要

1. 設 立 1929年
2. 本社所在地 42, Rue du Docteur Blanche, 75016 Paris, France
3. 代 表 者 社長 兼 CEO ジョン・ルーク・ベランガー
4. 従 業 員 数 約3, 700名(2002年12月末現在)
5. 売 上 高 718百万ユーロ(2002年)
6. 事 業 内 容 癌、内分泌、神経、血液系にターゲットをあてて、画期的新薬の開発を推進している。現在20以上の製品を上市。製品構成は、将来の成長源として特化している上記疾患領域の製品、ならびにその他天然物由来製品からなる。2002年、売上高の18. 2%を研究開発に投入。550名の研究員による国際ネットワークにより、パリ、ボストン、バルセロナ、ロンドンの4カ所に研究拠点を持つ。

【注意】

本資料に記載されている情報が証券取引法第 166 条第 2 項に定められた「重要事実」に該当する場合であって、公開後 12 時間が経過する時点までに本資料を読まれた方、およびその方の会社の他の役員・従業員で職務に関して本資料の内容を知らされた方は、証券取引法第 166 条第 3 項および同法施行令第 30 条の規定により、インサイダー規制に関する「第一次情報受領者」とされる可能性があります。「第一次情報受領者」は、上記公開時点までの間に当社の株券等の売買を行なうことは禁止されておりますのでご注意ください。